

# 日本川崎病研究センターニュースレター

(No.8) 2004.8.1

発行：特定非営利活動法人 日本川崎病研究センター

## 緒言 川崎富作

猛暑が続いておりますが、会員の方々はじめ皆様お変わりございませんか。

今年は川崎病が国際学会に取り上げられる当たり年で、4月7～8日イタリアのピサ大学でイタリア小児科学会・小児循環器学会共催の川崎病シンポジウムが開催され、私と東京逋信病院の鈴木淳子先生が出席し、イタリアでも川崎病が注目されていて、日々の小児科診療上重要な疾患になっていることを痛感しました。次に8月15～20日までメキシコのカンクンで開催される第24回国際小児科学会でも川崎病シンポジウムが行なわれ、日本から私と久留米大学の加藤裕久先生が出席します。更に9月には9～12日までベルリンでのドイツ小児科学会100年記念大会で、同じく川崎病シンポジウムがあり私と加藤裕久先生が出席します。

斯の如く川崎病は益々国際的に小児の重要な疾患として認められております。これは多くの研究者が川崎病について重要な論文を外国の一流誌に次々と発表して来たため、特に1970年～2002年の30有余年間の17回に亘る全国調査の成績は世界に類を見ない素晴らしい成果であり日本が国際的に誇り得るもので、川崎病の独自性を際立たせて来たと言えます。然るに今般、自治医大の中村好一教授（当センター理事）が申請した平成16年度厚生労働科学研究費（研究課題：川崎病全国調査による疾病登録

と疫学情報の有効活用に関する研究）が不採用との知らせを受け大きなショックを受けました。是非何らかの形で第18回全国調査が継続されるよう関係各位のご努力に期待します。

拘て当センターの財政基盤は生存科学研究所との共同研究のものと、会員の皆様の会費および篤志家のご寄付による淨財により支えられております。そのお陰で1999年以来地道な活動を続けてこられました。この陰には当センターを支える役員および職員の方々の尊いボランティア精神もあります。

これに対して主として官僚の天下り組織である特殊法人等の在り方は、我々と比べて極端な税金の無駄遣いと云えましょう。われわれの事業の公共性は国際的であり多くの特殊法人等に比しても勝るとも決して劣るものではないと思います。しかるに当センターに寄付して下さる善意の方々には「免税措置」が適用されません。

憂うべきことに生存科学研究所と当センターの共同研究は、財政上あと3年で終わろうとしております。川崎病の原因を解明して予防法を確立しようとする我々の使命の達成まで、今後の財政上の問題をどう解決したらよいか会員の皆様のお知恵を拝借したいと存じます。

本稿では新しく就任して下さった理事3人（中村好一氏他）のうち、村松、今田両氏の玉稿をいただきました。今後とも宜しく願い申し上げます。（当センター理事長）

## ご挨拶

### 今田義夫

この度、センターの理事に就任しました今田です。よろしくお願い致します。この機会に私と川崎病との関わりについて若干触れさせていただきます。

私は1974年5月に日赤医療センター小児科に勤務、以来川崎先生のご指導のもと多くの川崎病の患者さんと接することとなりました。当時は治療はアスピリンとステロイドの組み合わせが殆どで、血管撮影以外正確に冠動脈の状態を知ることが出来ず、主治医として退院後も不安がよぎること度々でした。また、川崎病と突然死があたかも一体の如き報道も多く、ご家族の心配は大変であったと思います。数日前、朝日新聞厚生文化事業団から浅井利夫、田辺功両氏の共著『新川崎病がわかる本』を送っていただきました。この本に資料として「川崎病の歴史」が経年的に極めて要領よく書かれており、一部紹介させていただきます。

これによると、私が日赤医療センターに勤務を始めた1974年は、川崎先生が第2代厚生省研究班長に就任され、川崎病研究が一段と加速された時代です。また、同年には溶連菌中毒原因説、水銀原因説が発表されています。翌75年には、川崎病にバイパス手術が行なわれ、77年には今では当たり前になっている心エコー検査で冠動脈瘤が確認されたと発表されています。

その後は、毎年のようにさまざまな原因論が発表されていますが、現在に至るも不明であることは皆さんご承知の通りです。さらに81年は新たに文部省川崎病研究班が発足しています。又82年には日本心臓財団の川崎病原因究明委員会が発足し、私も幹事の一人として参加させ

ていただき、多くのあらゆる分野の研究者と接することができたことは、少なからず影響を受けました。さらにこの年、親の会が発足しています。また、90年には川崎病情報センターが開所し、92年には日本川崎病研究センターと改称され今日に至っています。このようにみると、川崎病の歴史の多くの部分に身近に接することが出来たのみならず、センターに参画できることは、大変幸せなことだと思います。また、長年にわたって日本川崎病研究会の事務局を担当させていただいており、センターと研究会の連絡をより密にし、川崎病研究に少しでも貢献出来ればと考えています。

同時期に理事となった心臓財団の村松氏とは、82年の原因究明委員会でお世話になって以来の気心の知れた方だし、中村先生とは以前から何かとご指導いただくことが多く、大変心強く感じています。

最後に、もとより浅学非才の私ですが、若さを武器に日本川崎病研究センターの発展に微力を尽くしたいと存じます。皆様のご指導ご鞭撻をお願いいたします。

(日赤医療センター小児科副部長、乳児院院長)



ニュースレターNo.8をお届けいたします。  
ご意見ご感想をお寄せください。

## 川崎病原因解明を目指して

村松孝夫

私と川崎病との出会いは、私が日本心臓財団に入局した翌年の1982年に始まります。その年の前半に川崎病の患者が10,000人を超えました。川崎病に罹患すると、なかには冠状動脈に異常をきたし、ときに心筋梗塞による突然死を起こすことを知りました。そこで日本心臓財団では広い意味で心臓病と受けとめ、財団内に川崎病原因究明委員会を設置し、私とその事務方を担当することになりました。日本では初めての試みとして病気の研究費のために1口1,000円の募金を国民に呼びかけました。1982年発足の第一次委員会より二次、三次委員会を重ね、10年余を川崎病と関わりをもってきました。しかし残念ではありますが、原因解明に結びつくまでにはいたりませんでした。日本心臓財団における私の原点はここにあると思っております。心臓財団といえば循環器です。川崎病と関係することにより循環器のほか小児科、疫学、病理学、微生物学、細菌学、免疫学等の研究者、患者の親御さんたち、マスメディアの人たちとの交流をもつことができました。これは私の財産でもあります。

1990年に川崎富作先生を所長に開設された川崎病研究情報センターが、1999年日本川崎病研究センターと名称を改め、NPO法人に発展し、活動を広げられました。そのようななかでこのたび私に同センターの理事就任のお話をいただきました。1993年川崎病原因究明委員会解散後、10年が経過しており、川崎病に関して10年私にはのブランクがあります。この間、引き続き原因解明に、また治療法の確立に取り組んでこられ、私よりも理事にふさわしい方、適任

の方がいらっしゃるにもかかわらず、私を推薦、指名していただきました。

同センターのこれまでの役員は親の会代表の浅井満氏のほかは全員医師で構成されております。浅井氏は患者と医師とのパイプ役として、川崎病の子供をもつ親の不安、患者の気持ちを代弁し、また医師からの情報を患者さんやその親御さんに正確に伝えるという使命を担っております。もうひとりの医師でない私にできることといえば、NPO法人としての処務に関することであろうと思っております。

川崎病が発見された間もない頃は100人に2、3人の割合で亡くなると言われていました。発見されて40余年、日本全国の小児科医が川崎病の主要症状を知るところとなり、また検査や治療方法が発達した現在、10,000人に数人程度の死亡数となり、今では怖くない病気であると聞くこともあります。確かに10,000人に1人であれば数値のうえでは0.01%ですが、その一人にあてはまった人にとっては100%です。原因究明委員会に関係してきた私としては死亡数0にならない限り、日本で発見され、いまだに日本に多く発症する川崎病の原因解明にこだわり続けたい気持ちでおります。

研究者に原因解明への情熱を持ち続けていただくためにも川崎病の現状を常に発信し、広く理解を得る必要があると考えます。また後遺症として冠状動脈瘤を抱えたお子さんの今後のフォローも大切であり、循環器の臨床医および研究者の協力が必要と考えます。(財団法人日本心臓財団事務局長)

## 事務局から

### 【センター日報】

- 平成 16 年 5 月 21 日 平成 16 年度第 1 回理事会開催 6:00pm～（於:当センター）  
平成 16 年 6 月 5 日 平成 16 年度第 2 回理事会開催 12:30pm～（於:東京 YWCA）  
平成 16 年 6 月 5 日 平成 16 年度総会と研究報告会および懇親会開催（於:東京 YWCA）1:00pm  
各年度の事業報告及び会計報告、次年度の事業計画及び予算計画は総会議事録と共に  
当センターでいつでも閲覧できますので、お気軽にお立ち寄りください。  
平成 16 年 10 月 22 日 平成 16 年度（財）生存科学研究所川崎病研究会・平成 16 年度第 3 回  
特定非営利活動法人日本川崎病研究センター理事会合同会議開催予定（於:生存科学研究所）4:00pm  
平成 17 年 3 月 11 日 平成 16 年度第 4 回理事会開催予定

【特定非営利活動法人日本川崎病研究センター会員数 278】平成 16 年 7 月末現在

[正会員：109 名、2 法人、4 任意団体]：[賛助会員：159 名、2 法人、1 任意団体]

### 【研究会・講演会】

- ★ 第 5 回北海道川崎病研究会 平成 16 年 9 月 11 日（土）予定（於:札幌市）  
代表世話人:濱田勇(手稲溪仁会病院小児科部長)
- ★ 第 24 回日本川崎病研究会 平成 16 年 11 月 12-13 日（金・土）（於:京都府立医大図書館  
講堂） 会長:清沢伸幸(京都第二赤十字病院小児科)
- ★ 第 15 回東京川崎病連絡会 平成 16 年 11 月 27 日（土）（於:日赤医療センター）  
代表世話人:菌部友良(日赤医療センター小児科部長)
- ★ 第 29 回近畿川崎病研究会 平成 17 年 3 月 5 日（土）（於:テイジンホール・大阪市）  
会長:浜岡建城（京都府立医大小児疾患研究施設内科部門）
- ★ 第 25 回東海川崎病研究会 平成 17 年 6 月 11 日（土）14 時～（於:愛知県医師会館  
地下 1 階「健康教育講堂」） 当番世話人:桑原尚志（岐阜県立岐阜病院）
- ★ 「川崎病の子供を持つ親の会」  
問い合わせ先：「川崎病の子供を持つ親の会」事務局 Tel:044-977-8451

新会員募集にご協力ください！！

正会員 年会費 20,000 円

賛助会員 年会費 5,000 円

### 【川崎病に関するご相談】

当センターでは、川崎富作理事長が川崎病に関するご相談を受けております(無料)。お電話お手紙、Fax 等でご相談をお寄せください。(月曜日～金曜日但し：木曜日を除く：午後 2 時～午後 4 時)

特定非営利活動法人日本川崎病研究センター  
〒101-041 東京都千代田区神田須田町 1-1-1 久保キクビル 6 階  
Tel:03-5256-1121 Fax:03-5256-11

日本川崎病研究センターニュースレター

(No.1) 2001.1.1

発行：特定非営利活動法人 日本川崎病研究センター